

# 東北地方 3 か月予報

( 6 月から 8 月までの天候見通し )

平成 1 9 年 5 月 2 4 日  
仙台管区气象台発表

## < 予想される向こう 3 か月の天候 >

向こう 3 か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。  
この期間の平均気温は、高い確率が 5 0 % です。

6 月 東北地方は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。  
気温は、平年並または高い確率がともに 4 0 % です。

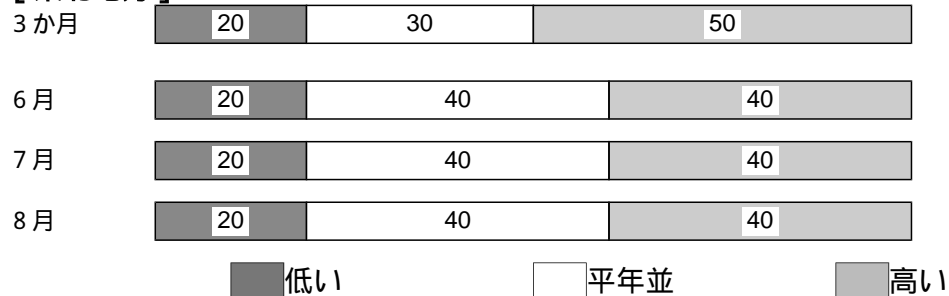
7 月 東北地方は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。  
気温は、平年並または高い確率がともに 4 0 % です。

8 月 東北地方は平年と同様に晴れの日が多いでしょう。  
気温は、平年並または高い確率がともに 4 0 % です。

## < 向こう 3 か月の気温、降水量の各階級の確率 ( % ) >

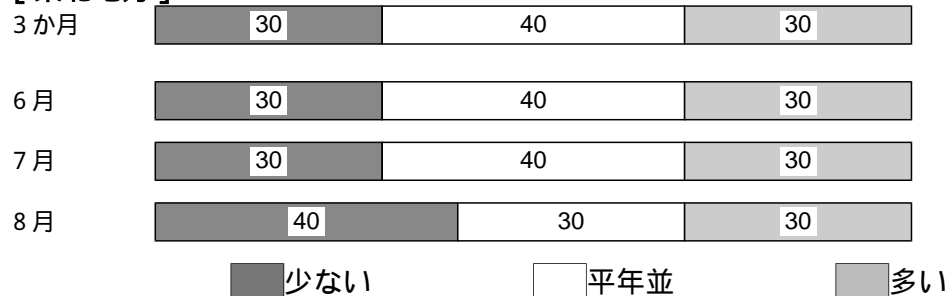
### < 気温 >

#### [ 東北地方 ]



### < 降水量 >

#### [ 東北地方 ]



**< 次回発表予定等 >**

1 か月予報：毎週金曜日 14 時 30 分 次回は 5 月 25 日

3 か月予報：6 月 25 日（月） 14 時

6 月の予報については、新しい資料による次回以降の 1 か月予報を適宜ご利用ください。

なお、暖候期予報として発表していた、この夏（6 ～ 8 月）の予報については、今回の 3 か月予報等の最新の予報をご利用ください。

< 参考資料（平年並の範囲等） >

（１）平年値（月・３か月平均気温、降水量、日照時間）

	気 温 ( )				降 水 量(mm)				日照時間(時間)			
	6月	7月	8月	6月～8月	6月	7月	8月	6月～8月	6月	7月	8月	6月～8月
青森	17.0	21.1	23.0	20.4	82.2	102.6	129.3	314.1	180.7	177.3	190.8	548.8
深浦	17.2	21.3	23.1	20.5	109.4	146.0	157.4	411.1	179.6	177.7	185.9	543.2
むつ	15.6	19.6	21.7	18.9	109.0	122.8	140.4	372.1	162.6	151.1	152.8	466.5
八戸	16.1	20.2	22.3	19.6	99.2	117.1	139.8	356.1	168.8	169.0	173.3	511.1
秋田	18.8	22.8	24.5	22.0	127.5	178.1	181.9	487.6	178.0	171.5	200.4	549.8
盛岡	18.2	21.8	23.2	21.0	114.9	165.7	177.8	458.4	151.7	143.2	158.8	453.7
大船渡	17.3	21.0	23.0	20.4	171.5	170.3	198.6	546.4	148.2	150.0	161.5	459.8
宮古	16.0	20.0	22.2	19.4	117.3	139.2	180.8	437.2	140.4	149.4	165.2	455.0
仙台	18.3	22.1	24.1	21.5	137.9	159.7	174.2	471.8	127.9	127.7	155.4	411.0
石巻	17.7	21.3	23.5	20.8	111.6	131.0	127.0	369.6	145.6	147.9	178.1	471.6
山形	19.5	23.2	24.6	22.5	102.6	143.9	148.8	395.3	153.8	155.8	184.7	494.4
新庄	18.7	22.3	23.9	21.6	131.0	185.6	174.5	491.1	152.7	154.4	177.5	484.7
酒田	19.3	23.2	24.9	22.5	128.1	186.1	175.8	490.0	175.9	179.8	211.6	567.3
福島	19.9	23.5	25.2	22.9	118.1	144.8	144.3	407.2	130.1	133.4	159.7	423.2
若松	19.8	23.4	24.8	22.7	115.7	160.1	131.0	406.9	157.9	168.9	199.5	526.3
白河	18.4	22.0	23.3	21.2	167.6	186.8	228.2	582.7	121.9	129.4	154.0	404.1
小名浜	18.3	21.7	23.9	21.3	149.8	120.5	141.7	412.0	138.4	153.1	193.9	485.4

欠測により平年値を求めるための資料年数（観測値のある年数）が各月毎に異なることなどにより、３か月平年値等が各月の平年値から求めた値と一致しないことがあります。

（２）1971～2000年のデータに基づいたこの予報期間の地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差（比）の「平年並」の範囲は次のとおりです。

要 素	予報対象地域	6月	7月	8月	6月～8月
気温平年差( )	東北地方	-0.6 ～ +0.2	-0.1 ～ +0.6	-0.3 ～ +0.6	-0.4 ～ +0.3
	東北日本海側	-0.5 ～ +0.2	-0.2 ～ +0.4	-0.5 ～ +0.5	-0.4 ～ +0.1
	東北太平洋側	-0.5 ～ +0.2	-0.3 ～ +0.8	-0.3 ～ +0.5	-0.5 ～ +0.5
降水量平年比(%)	東北地方	82 ～ 118	89 ～ 117	73 ～ 117	82 ～ 110
	東北日本海側	71 ～ 105	83 ～ 123	74 ～ 107	84 ～ 111
	東北太平洋側	88 ～ 111	85 ～ 114	67 ～ 120	85 ～ 112
日照時間平年比(%)	東北地方	95 ～ 106	92 ～ 109	90 ～ 109	94 ～ 107
	東北日本海側	96 ～ 107	88 ～ 108	94 ～ 112	96 ～ 106
	東北太平洋側	90 ～ 108	93 ～ 110	87 ～ 109	93 ～ 108

（３）梅雨時期前後における各地の平年の気象経過

旬降水量 平年値 (mm)	5月			6月			7月			8月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
青森	30.0	22.6	26.2	23.6	30.9	27.8	36.8	27.7	38.2	43.2	33.8	52.3
深浦	41.3	33.5	34.0	29.4	44.4	33.6	54.4	43.2	48.3	53.8	38.6	65.0
むつ	35.8	27.6	28.8	36.3	36.8	35.8	48.1	39.4	35.3	43.2	32.8	64.4
八戸	26.1	28.6	30.1	26.6	38.1	34.5	48.3	31.7	37.1	37.3	38.2	61.7
秋田	46.5	40.2	36.2	29.7	50.6	47.2	71.5	61.5	45.1	56.8	51.5	73.6
盛岡	38.6	32.7	32.0	30.8	43.3	40.8	56.8	58.2	50.7	58.6	43.7	75.5
大船渡	50.0	55.9	43.9	50.9	60.7	57.6	63.0	69.1	38.2	50.3	56.9	91.5
宮古	31.9	35.5	31.0	29.5	43.7	44.1	53.8	46.4	39.0	49.5	50.0	81.3
仙台	33.7	45.0	29.3	31.6	42.4	63.8	55.7	63.5	40.5	55.3	45.4	73.6
石巻	33.3	37.6	27.3	27.2	31.9	52.6	46.1	52.1	32.9	36.1	33.3	57.6
山形	27.0	30.3	24.0	24.4	28.2	50.0	44.5	56.2	43.2	50.1	36.3	62.4
新庄	40.5	35.8	30.4	25.7	45.3	60.0	64.4	78.1	43.1	60.5	45.3	68.6
酒田	44.7	37.7	34.4	24.9	46.4	56.7	70.1	70.7	45.3	57.4	40.0	78.4
福島	25.9	35.8	25.8	25.4	31.4	61.4	46.5	53.6	44.8	45.7	36.5	62.2
若松	27.5	29.3	23.7	20.3	33.7	61.7	56.1	60.5	43.5	47.2	39.1	44.8
白河	40.4	41.3	38.2	40.1	55.5	72.0	65.0	69.4	52.4	65.8	62.8	99.7
小名浜	48.3	60.3	38.5	35.3	47.4	67.1	49.5	46.3	24.7	46.3	33.5	61.9

旬日照時間 平年値 (h)	5 月			6 月			7 月			8 月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
青森	64.7	68.3	77.5	64.0	59.6	57.1	53.8	56.3	67.2	67.0	60.8	63.1
深浦	58.4	63.9	75.1	64.5	58.6	56.6	52.7	56.1	68.9	63.3	61.8	60.8
むつ	64.9	65.4	77.5	61.2	52.8	48.7	47.3	45.8	58.0	57.6	46.5	48.9
八戸	65.6	64.9	77.1	61.9	56.5	50.5	51.0	51.5	66.6	62.8	56.3	54.3
秋田	56.9	61.2	73.2	65.6	59.5	53.1	49.3	52.8	69.5	65.5	68.0	66.9
盛岡	61.3	61.7	71.9	57.8	51.3	42.6	42.2	42.0	59.1	56.4	52.9	49.6
大船渡	61.1	61.1	74.1	59.0	50.1	39.1	45.3	41.9	63.0	59.3	51.4	50.9
宮古	61.6	59.4	70.8	55.3	45.3	39.8	44.9	40.8	63.9	57.7	54.7	53.0
仙台	63.5	60.6	74.6	54.1	43.1	30.9	35.7	37.0	55.4	56.3	49.5	49.7
石巻	65.1	63.8	77.6	59.5	48.6	37.6	42.6	44.5	62.4	62.7	57.9	57.6
山形	62.9	62.0	76.9	62.2	52.3	39.3	42.7	43.2	70.0	61.9	61.8	61.0
新庄	55.7	56.8	67.6	59.7	53.2	39.9	40.8	45.3	68.4	60.6	61.3	55.6
酒田	60.5	62.3	76.6	66.2	60.0	49.7	46.5	53.4	80.0	71.0	72.3	68.3
福島	64.1	59.7	74.2	54.6	43.6	32.0	37.8	37.1	58.8	57.7	51.5	50.6
若松	62.8	60.1	74.9	63.9	53.9	40.1	46.8	45.6	76.6	67.8	66.4	65.3
白河	59.9	59.1	69.5	51.9	41.4	28.9	35.9	35.5	58.9	54.1	50.3	49.7
小名浜	62.7	62.4	74.5	58.5	44.9	35.2	42.1	41.9	69.4	66.0	65.0	63.0

( 4 ) 接近する台風の平年値

	6 月	7 月	8 月
東北地方	0.1	0.3	0.7

< 参考資料 ( 利用上の注意 ) >

( 1 ) 気温 ( 降水量 ) 等は、「低い ( 少ない ) 」「平年並」「高い ( 多い ) 」の 3 つの階級で予報します。階級の幅は、1971 ～ 2000 年の 30 年間に於ける各階級の出現率が等分 ( それぞれ 3 3 % ) となるように決めてあります ( 気候的出現率と呼びます ) 。

( 2 ) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった 1 0 % 以下や 6 0 % 以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度 ( 3 0 % 、 4 0 % ) の確率しか付けられません。

( 3 ) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い ( 少ない ) 場合は「平年に比べて多い ( 少ない ) 」、また平年の日数と同程度に多い ( 少ない ) 場合には「平年と同様に多い ( 少ない ) 」と表現します。なお、単に多い ( 少ない ) と表現した場合には対象期間の 2 分の 1 より多い ( 少ない ) ことを意味します。

# 東北地方 3 か月予報解説資料 (6～8 月)

平成 19 年 5 月 24 日 仙台管区气象台

## 1. 向こう 3 か月の確率予報の特徴

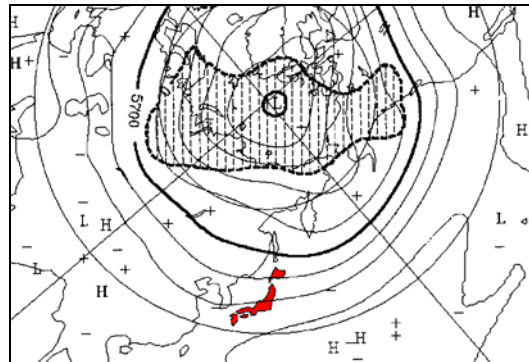
	気温	降水量
6 月～8 月	高い確率が 50%	各階級の確率の偏りは小さい
6 月	平年並または高い確率がともに 40%	各階級の確率の偏りは小さい
7 月	平年並または高い確率がともに 40%	各階級の確率の偏りは小さい
8 月	平年並または高い確率がともに 40%	各階級の確率の偏りは小さい

## 2. 数値予報 (アンサンブル予報) による大気の流れの予想

### 3 か月平均の 500hPa 高度と偏差の予想図 (右図) :

予想図では、日本付近は広い範囲で正偏差域 (平年より高度が高く、一般に暖気に対応) におおわれる。このため 3 か月平均気温は高い傾向が予想される。

なお、オホーツク海付近も平年に比べて高度が高く、一時的にはオホーツク海高気圧が発生して、東北太平洋側を中心に冷たく湿った東風の影響をうける可能性はある。



3 か月平均の 500hPa 高度と偏差の予想図

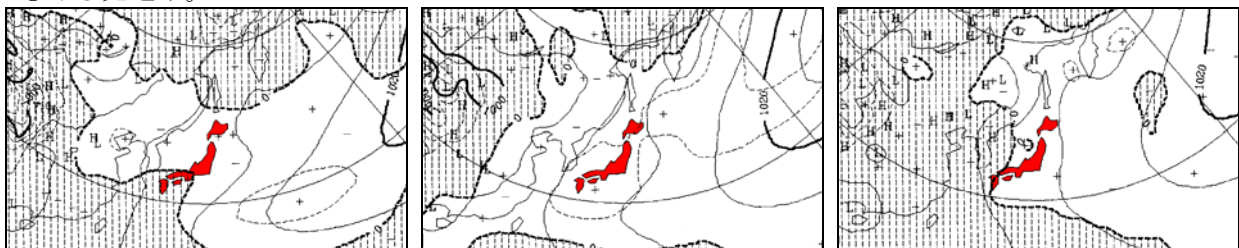
実線は等高度線 : 60m 毎、点線は偏差 : 30m 毎  
陰影部は負偏差 (一般に寒気に対応)

### 月別の地上気圧と偏差の予想図 (下図。なお、予想図の精度は予想対象期間が先になるほど低下します。) :

**6 月 :** 太平洋高気圧は日本の南東海上で強い。時々前線を北に押し上げ、東北地方は平年と同様に曇りや雨の日が多い見込み。

**7 月 :** 日本付近は正偏差 (気圧が高い)。太平洋高気圧の勢力は強く、東北地方は高温傾向。前線が北へ押し上げられて、東北地方に停滞することもあり、天気は平年と同様に曇りや雨の日が多い見込み。

**8 月 :** 日本付近は正偏差で太平洋高気圧は北へ張り出す。東北地方は太平洋高気圧におおわれ晴れの日が多い見込み。ただし、一時的な前線の南下や湿った南東風の影響で天気がぐずつくこともある見込み。

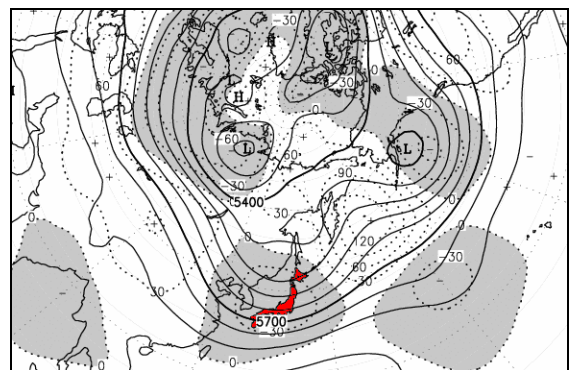


月別の地上気圧と偏差の予想図 (左から 6 月、7 月、8 月)

実線は等圧線 : 4hPa 毎、点線は偏差 : 間隔 1hPa 毎、陰影部は負偏差

## 3. 循環場の特徴

**5 月 :** 500hPa 高度では、日本付近は谷場となっており、気圧の谷が北日本を短い周期で通過した。このため東北地方は北部を中心に曇りや雨の日が多かった。また、日本付近は負偏差で一般には寒気に対応するが、低気圧や気圧の谷が日本海から北日本を通過することが多く、低気圧に向かって南から暖かい空気が入りやすかったため、気温は高い日が多かった。



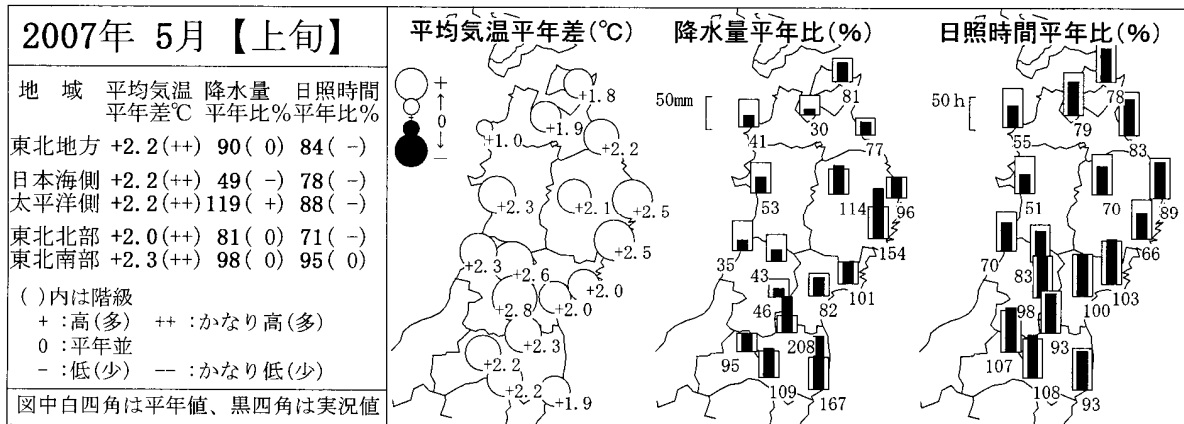
5 月 1 日～20 日の平均 500hPa 高度

実線は等高度線 : 60m 毎、点線は偏差 : 30m 毎  
陰影部は負偏差

#### 4. 最近の天候経過

**5月上旬：**低気圧や気圧の谷が短い周期で通過した。低気圧や気圧の谷は日本海を進むことが多く、東北北部は曇りや雨の日が多かったが、東南北部は晴れの日が多かった。また、東北地方へは南から暖かい空気が入り、気温はかなり高かった。

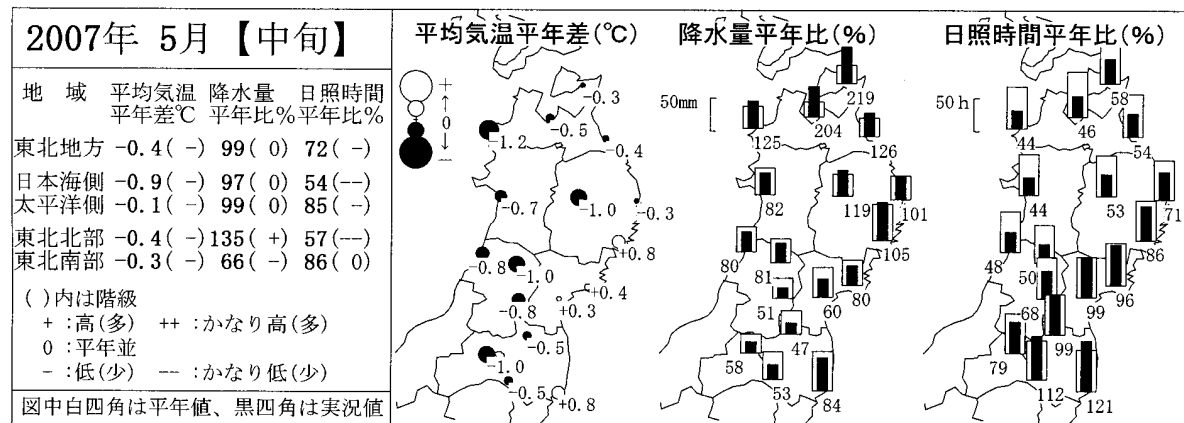
平均気温は東北地方でかなり高い。降水量は東北日本海側で少なく、東北太平洋側で多い。日照時間は東北北部で少なく、東南北部で平年並。



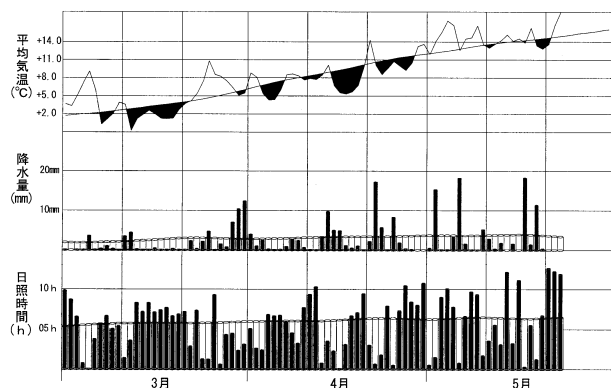
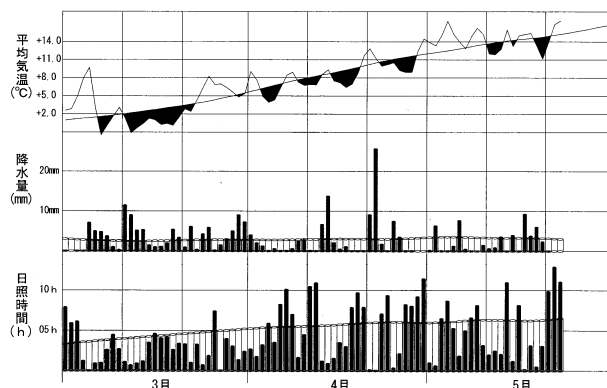
東北地方における5月上旬の平均気温、降水量、日照時間平年差(比)

**5月中旬：**低気圧や寒気を伴った気圧の谷が短い周期で通過した。このため、東北地方は北部を中心に曇りや雨の日が多く、気温は低めに経過した。

平均気温は東北地方で低い。降水量は東北北部で多く、東南北部で少ない。日照時間は東北北部でかなり少なく、東南北部で平年並。



東北地方における5月中旬の平均気温、降水量、日照時間平年差(比)



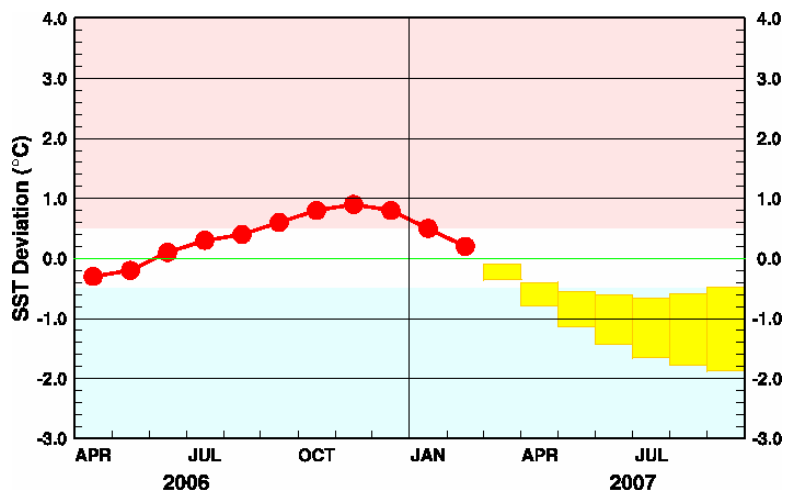
気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均(気温：実線と点線、降水量・日照時間：黒い円柱と白抜き円柱)

## 5. 太平洋赤道域の海水温等の状況、及びエルニーニョ現象等の今後の見通し

エルニーニョ監視速報 (No. 176) より抜粋。(気象庁ホームページ：<http://www.jma.go.jp/>)

・太平洋赤道域の海面水温は、東部で顕著な負偏差、西部で顕著な正偏差だった。海洋表層（海面から深度数百mまでの領域）の水温では、中部から東部にかけて顕著な負偏差が見られた。中部の大気下層では東風偏差が持続し、ラニーニャ現象に向かう時期の特徴を示している。

・エルニーニョ監視海域の海面水温は、今後下降し、夏から秋にかけて基準値より低い値で推移すると予測され、今後1、2か月の内にラニーニャ現象が発生する可能性が高い。



エルニーニョ監視海域の海面水温の基準値との差の5か月移動平均値の2月までの推移（折れ線グラフ）とエルニーニョ予測モデルから得られたその後の予測（ボックス）

各月のボックスは、海面水温の基準値との差の5か月移動平均値が70%の確率で入る範囲を示す。（基準値はその年の前年までの30年間の各月の平均値）。

### <参考資料>

#### ①. 平年の天気出現日数（日）

	6月		7月		8月	
	東北日本海側	東北太平洋側	東北日本海側	東北太平洋側	東北日本海側	東北太平洋側
晴れの日	14.3	12.0	14.6	12.6	18.1	15.8
雨の日	10.3	10.4	10.9	11.1	9.7	9.9

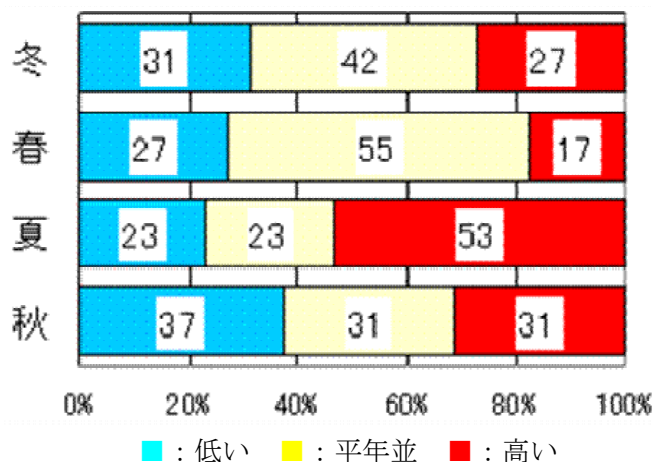
注：季節予報では、「日照率40%以上の日数」、「日降水量1mm以上の日数」をそれぞれ晴れの日、雨の日の目安として用いている。この2つの事象は同じ日に起こりうるため、両方に数えられる日もある。なお、日照率は1日の日照時間を可照時間（太陽の中心が東の地平線に現れてから西の地平線に没するまでの時間）で割った値である。

#### ②. ラニーニャ現象と東北地方の夏の気温

今年の夏はラニーニャ現象が発生する可能性が高いと予想されています。過去の統計では、ラニーニャ現象が発生している時は、東北地方の夏（6月～8月）平均気温は、「平年並～高い」傾向があります（右下図）。ラニーニャ現象発生時は太平洋熱帯域西部の対流活動（雲を発生、発達させる活動）が平年より活発となり、その影響で太平洋高気圧が平年より強まり、日本付近は高温となる傾向があります。また、東北地方の梅雨明けは、「平年並～早い」傾向があります（図略）。

なお、過去にはラニーニャ現象が発生していても低温になった年もあります。また、あくまで統計資料であり、図に示した確率で天候の出現が予想される、ということではありませので注意してください。

実際の予報は、数値予報結果や近年の天候の傾向など総合的に判断しますが、今年の夏は太平洋高気圧の勢力が強く、暑夏になる可能性は確率50%で大きいと見られます。



#### ラニーニャ現象発生時の季節別の気温の特徴

統計期間：1971～2004年。

棒グラフの数字は出現率を示す。

気温の長期傾向を除去して統計してある。